
LAST RESORT

Zito

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

LAST RESORT

【Nコード】

N1017F

【作者名】

Zitto

【あらすじ】

だらけきつた19歳の音楽馬鹿。ある日ライブで知り合った女の子が…？まあ、ありがちな青春群像劇。多少の脚色や設定変更を除けばノンフィクションです。

Tuning(前書き)

かなり稚拙です。

ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げますm()m

Tuning

市街地から電車で20分程に位置する住宅街の一角にある公園に1人の少年がいた。

ブランコに乗り、左右にゆらゆらと揺れている。

ヘッドホンから漏れているのはBLANKET JET CITY
のCamaro。

空を見上げていた。

今夜は満月。

夜空に蒼白く浮かぶ月に向かって彼は煙草の煙を吐いた。

彼の名前は圭吾。

19歳、体格は割とがっちりしてる方で顔は至って普通。
成り行きで付き合っことになった亜美という彼女がいた。
そして馬鹿だった。

生きる意味を履き違えて努力もせずに結果だけを求め、自分で勝手に世の中に失望していた。

自分は人とは何かが違う、それを認めてくれない世間が悪いと思い込んでる彼は音楽こそが、ROCKこそが自分を狂った世界から隔離して生を実感させてくれると信じて止まなかった。

圭吾は幼少時から親の影響でビートルズやストーンズを聴いていたが、小学校の時にテレビで観たBLANKET JET CITY（以下BJC）に影響を受けてからはもっぱら邦楽ROCKを聴くようになった。

その影響は凄まじく、圭吾の人生を大きく変えてしまった。

普段の言動からそれは垣間見ることができ、学校などで圭吾は異質な存在として扱われていた。

だが彼自身は『異質』として扱われることにカタルシスを持っていて何ら不満は無く、そんな彼を受け入れてくれる友人もいた。

楽しけりやそれで良い、そんなことを考えて遊んでるうちに高校生活が終わり、半ば二トのような日々を送るようになって半年。

近所の公園で煙草を吸って、音楽を聴きながらぼーっとするのが日課となっていた。

曲が終わると圭吾は煙草をもみ消して立ち上がり、家に向かって歩き始めた。

季節はもうすぐ夏だった。

R e h e a r s a l (前書き)

以前投稿してた話の少し設定変えて書き直しました。

R e h e a r s a l

狭く、無機質で、閉鎖的な空間。

耳を塞ぎたくなるような轟音の中で圭吾がマイクスタンドを掴んで歌っている。

端から見れば完全に発狂してしまったヤク中である。

圭吾は高校を卒業してからバンドを組んでいた。

バンド名は『Urban Midnight Stripper』（以下UMS）といい、今時には珍しく典型的なゴリ押しのジャパニーズロックをやるバンドで、音楽性としては日本脳炎や頭脳警察に似ていて、圭吾はボーカルとギターを担当している。

使用しているのはフェンダージャガー。

NIRVANAのカート・コバーンやRed Hot Chili Peppersのジョン・フルシアンテが愛用しているフェンダーの最高級機種である。

今日はUMSの練習日で圭吾は朝からスタジオに缶詰め状態だった。

「よし。今日はそろそろあがるつか。」

リーダーでギタリストの千秋が声をかける。

圭吾は以前組んでいたバンドで音楽性の違いから楽しめていなかった時に彼から誘われたのであった。

『デビューなんかしなくて良い。身近な人達に大切なメッセージを送れる最高のバンドをやろう。』

千秋の想いや音楽性は見事に圭吾のそれと一致し、千秋が声をかけていた他のメンバーとトントン拍子でUMSの結成となった。

「いよいよライブかー」

煙草に火を着けながら千秋が言った。

スタジオの休憩室で練習後の一服を楽しむのがお決まりのパターン。

そしてUMSの初ライブが明日に迫っていた。

「俺、緊張してきたっ」と弱気なのはベースの雄二。

演奏中は他のメンバーを牽引するくらいのパフォーマンスを見せる

のだが普段はおどしている気の弱い好青年なのだ。

「最高だよこのバンドは。きっと大丈夫。」

圭吾は本当に心から思っていた。

「客いっぱい来るかな？やっぱ多いほうがテンション上がるよねー」

待ちきれない様子なのはドラムの尚。

元吹奏楽部の彼はパワフルかつ基本に忠実で正確無比なドラミングをする。

圭吾、千秋、雄二と自由奔放にプレーする3人の演奏が一つにまとまって成り立つのは尚のテクニックによる部分が大きかった。

「それじゃあ明日頑張ろうな。」

「「「おう。」」」

明日に誓いを立ててUMSのメンバーはそれぞれの帰途についた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1017f/>

LAST RESORT

2010年10月11日13時03分発行